

Pch ~ピチャリ~

七飯町歴史館だより

第215号

ななえ古写真物語

VOL.215

干すという文化

大根干し風景

昭和20年代後半か

藤城地区



個人的な意見かもしれないが、日本の原風景ともいえるもののひとつに、「天日干し」があると思っている。稲、柿、梅、椎茸、豆腐、寒天、海苔といった食品から、洗濯物や布、紙、布団など、思いつくものだけでも、幾多にもなる。そして、上の写真にある大根もその一つだろう。

天日干しは、太陽の光と風の力によって、乾かす方法なのだが、食べ物だと、旨みと甘みが増すだけでなく、長期保存が可能となるし、布などは殺菌と消臭効果が期待できるそうだ。まさに、くらしの知恵が凝縮された技と言ってもいいだろう。

上の写真は、かつて、ピチャリ第120号で紹介した写真の続きとなる大根干しの一コマである。聞き取りでは、2週間ほど干した後、大きな樽で漬けて沢庵を作り、函館などに出荷していたそうで、特にはさ掛けするのは、とても大がかりな作業のため、親類縁者総出で行ったそうだ。

右手前には、掘り出されて間もないのだろうか、まだ土が付いた大根が山のように並べられ、中央には、洗うための樽、そして左側には、洗い終わった大根が並べられている。おそらくそれらを菜っ葉の部分で結び、三段に掛けていく流れだろう。すべて人力で行っているのだから、想像しただけでも重労働である。

ところで、現在も七飯町では根菜類の栽培は盛んなのだが、いつ頃から作られ始めたのか、少し調べてみたら、大川村、峠下村、七重村それぞれ、「大根」と明記されていたのが、1854年（安政元年）である。だた、野菜総体を表す「蔬菜」は、1800年代はじめに、各村にて栽培されていた記録がある。もしかしたら、大根も含まれていた可能性はあるのだが、ほとんどの村では不作で、豆や麦などの穀類のほうが主力だったとも記載されている。よって大根が確実に広まっているのは、安政年間と考えるのが無難であるし、少なくとも、江戸時代には、あわせて沢庵つくりも行われていた可能性もある。ただ結論付けるには、文献の調査が足りていないので、あくまで可能性の段階でとどめておく。

以前にも書いたが、写真に見られるような、大がかりな「天日干し」は、わたしたちの暮らしの中で、当たり前に見られる時代ではなくなった。その要因として、テクノロジーの進化や経済の発展、何よりも社会全体として、自給自足的なものから、購入消費が主流となる時代へ変容したことがあげられる。時代の流れには抗えないのかもしれない。それでもまだ、個人レベルで天日干しをする人が結構いる。だから「干す」という行為は、長い年月をかけて培われた、日本の文化だと思いたい。

7・13・15日 団体見学

秋になると、団体見学が徐々に増えます。町内外の小学校やツアー客の方々なども来館します。縄文とアイヌとの関わりについて学習する6年生は、アイヌの衣服を纏う体験を行い、昔の道具を学びに来館した3年生は、箱枕や火のしななどの道具が、素材がどう変化したかなどを学びました。熱心に質問している印象をもったのは、関東から来られたツアー客の皆さん。常設展示室の解説や館内で展示している植物のこと、住んでいる土地との違い、更に学びを深めるための勉強方法を尋ねる、学習意欲に深く感動しました。



18日 ジュニア探検クラブ

調理をするプログラムは、てんやわんやです。この日は、カレーとりんごのおやつを作りました。館で栽培している紅玉（こうぎょく）を収穫するところから始めました。すりおろしてカレーに入れるためです。慣れない包丁を使い、工夫しながらつくる様子を、やや心配しながら見守りました。ご飯は土鍋で炊きました。米の浸水時間や火加減など、初めての経験も多かったようです。お母さんに作ってあげたい！と言った子の笑顔が、とても素敵でした。



テーマ展のご意見や感想

10月31日で終了したテーマ展、足もとから知る「かんきょう」展では、意見や感想を書いてもらう試みを行いました。子どもの頃と現在との環境のちがいや環境に対して行っていることです。夏が長い。外来植物が増えた。むかしは年長者から危険なことを学ぶ機会があった。生活の中でモノを増やさないことを心がけ、使用できるものは限界まで使うなど。他者の意見に耳を傾ければ、変えられるということを、改めて知った展示でした。



編集後記 ~tawagoto~

白黒写真の魅力。改めてそれを思ったのは、次展示で使用する当時の発掘作業を写した写真だ。そこにはデジタルではない、フィルムカメラ独特の色合いとちいさな額縁の中に、2色で表現される人々の様子がとても新鮮に映った。最近はフィルムの値段も高価になった。若いころに白黒のフィルムにこだわり、自ら写真を焼くという作業に従事したことが懐かしい。展示写真を見て、どんな色の服を着ていたんだろう、と想像するのも白黒写真の楽しみだ。

12月の予定

1	月	休館日
2	火	特別展「聖山」開催中
3	水	
4	木	
5	金	
6	土	
7	日	
8	月	休館日
9	火	
10	水	
11	木	
12	金	
13	土	
14	日	
15	月	休館日
16	火	
17	水	
18	木	夜の博物館第1夜
19	金	
20	土	ピチャリ第216号発行
21	日	
22	月	休館日
23	火	
24	水	
25	木	
26	金	
27	土	ジュニア探検クラブ
28	日	
29	月	年末年始休館日
30	火	
31	水	

※休館日：1,8,15,22日,29~31日

チヨンナ

正しくは斬（ちょうな）と言います。湾曲した柄の先に刃が付き、丸太を削って角材などを作る道具です。



Pi-cha-ri ~ピチャリ~

第215号

令和7年（2025年）11月20日発行

七飯町歴史館

〒041-1193 亀田郡七飯町本町6丁目1-3

電話 0138-66-2181 FAX 0138-66-2182

E-mail : rekishikan@town.nanae.hokkaido.jp